

MV-22オスプレイのハワイにおける事故

事故概要

平成27年5月17日(現地時間)、ペローズ海兵隊訓練場において訓練を実施中、第15海兵機動展開隊のMV-22が着陸に失敗。(搭乗人員22名中2名死亡、その他大多数も負傷。クラスA飛行事故※)

※政府や他の財産への被害総額が200万ドル以上、国防省所属航空機の損壊、又は、死亡もしくは全身不随に至る傷害もしくは職業病を引き起こした事故

事故原因

① パイロットのパフォーマンス等(人的要因)

- ✓ パイロットの不十分なリスク評価により、設計上想定されている以上に砂塵の中でホバリングを継続
- ✓ 着陸帯の状況を事前に十分に確認せず、着陸地点の砂塵の巻き上がり具合は、予測・計画よりはるかに深刻

※ パイロットは規則そのものには違反していないが、適切にリスク評価を行い意思決定していれば、深刻な事態を回避できた

② 過剰な砂塵の吸入

- ✓ 2回連続で砂塵の中で着陸を試み、設計上想定されている以上に砂塵の中に止まった際、エンジン内に過剰に砂塵を吸入
- ✓ 左側エンジン内の空気流量が著しく低下し、出力を喪失(機体は地表へ落下)

※ 一般的に、設計上の想定を超えエンジン内に過剰に砂塵が吸い込まれた場合にエンジン出力が失われる事象は、全ての航空機に起こり得るもの



設計上想定されている時間以上に砂塵の中に止まるといった、極めて例外的な原因により今般の事案が発生
MV-22オスプレイの設計に根本的欠陥がある訳ではないことを改めて確認

再発防止策

(既に処置済み)

- ① 飛行マニュアルの改訂(砂塵内における飛行時間を更に制限)
- ② 砂塵内における飛行時間の制限についての教育の徹底

(今後の改善処置として提言されている事項)

多機能ディスプレイの機能強化、エンジンの状態に係る警告システム、エンジン・フィルター・システムの改良等